

兵中（兵庫中央病院）だより 看護部

11月

兵中だよりも第3弾になりました。

今回は、脳神経内科の患者さんが声以外で意思を伝える非言語的コミュニケーションについて、その人の持つ機能を活かしながら自分らしく過ごせるよう、言語聴覚士や作業療法士などの多職種と協力しコミュニケーション方法を工夫しているのですがその一部ですがパソコンと文字盤について紹介します。

パソコン



PCの画面の一部です。



実際に患者さんが打ってくれたものです。

こんにちは。私の名前は
〇〇です。パソコン大好き
毎日しています

ピエゾ

患者さんに掲載する承諾を得ています。



長文で伝えたいことがあるとき
や家族や友人への連絡の他に、
インターネットで栄養補助食品等
を購入することもあります。

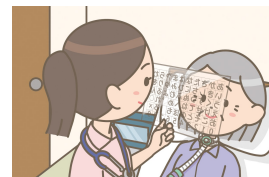
マウスの代わりにピエゾというセンサーを額に貼り、眉を動かすことで画面の文字を選び、変換・確定を選択しPCを操作しています。センサーを貼る位置は患者さんそれぞれの動かしやすい部分に合わせます。

文字盤



文字盤は50音を一枚の紙や板に書いたものです。写真のように患者さんに一文字ずつ指差しをしてもらうものや、患者さんと向かい合って、目線で文字を示してもらう文字盤などがあります。ベッドの角度や目線の位置、文字盤の持ち方などは患者さん一人ひとりに合わせた方法を工夫しています。

最初は患者さんとタイミングを合わせる
のが難しいですが、何度も練習すること
でスムーズにコミュニケーションがとれる
ようになります。



上記紹介の他にも患者さんの目線やジェスチャーなどによる非言語的なコミュニケーションを読み取り、患者さんが伝えたいことをキャッチできるようにしています。言語的コミュニケーションが困難な患者さんは、言葉をうまく伝えられない苦しさや苛立ちを感じています。私たち看護師は、そんな患者さんの思いを理解し、話しやすい環境を作ることによって安心感を与えられるよう看護を行っています。

広報委員会

